

平成14年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	生涯学習部スポーツ課	直通電話	72-3174	事業コード	405010104	課内	6	作成日	平成15年8月14日
		担当者	高井 史朗	担当課長	森谷 栄直	担当部長			樋口 幸廣

1 事業のアウトライン

1) 事業名	わんぱく野外スクール事業	開始年度	S59	終了年度	未定						
		最近の事業内容見直し年度	H13								
2) 総合開発計画での事業体系	<table border="1"> <tr> <th>施策コード</th> <th>大項目 / 小項目 / 細項目</th> </tr> <tr> <td>4050101</td> <td>生涯スポーツ・レクリエーションの振興 / スポーツ・レクリエーション活動の普及促進</td> </tr> <tr> <td>4050401</td> <td>生涯スポーツ・レクリエーションの振興 / 指導者の発掘、養成と活用</td> </tr> </table>					施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目	4050101	生涯スポーツ・レクリエーションの振興 / スポーツ・レクリエーション活動の普及促進	4050401	生涯スポーツ・レクリエーションの振興 / 指導者の発掘、養成と活用
施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目										
4050101	生涯スポーツ・レクリエーションの振興 / スポーツ・レクリエーション活動の普及促進										
4050401	生涯スポーツ・レクリエーションの振興 / 指導者の発掘、養成と活用										
3) 個別計画での位置付け	石狩市教育プラン 基本計画 7 (1) 豊かな自然を生かした野外活動の推進を図るため、野外活動指導者の養成を図るとともに、野外体験の機会の提供に努めます										

2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	豊かな自然を生かした野外活動の推進を図る
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	1. 参加者が自然や野外活動に関する知識、技術を習得し、集団宿泊生活を通して自主性や協調性が身につく。 2. リーダーが活動プログラムを企画・運営することにより指導者としての資質が向上する。
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	<p>【対象者】 1. 参加者 小学5・6年生 2. わんぱくリーダー 中学生(過去のスクール参加者) 3. リーダー 高校生以上</p> <p>【日程】 リーダー事前研修 1日(リーダー及びわんぱくリーダー対象) 本研修 2泊3日(夏休み期間中)</p> <p>【場所】 美登位創作の家</p> <p>【内容】 1. 新しい発見と多様な体験～ネイチャーゲーム・和風つくり 2. 楽しい共同生活と友愛心の涵養～アイスブレイク・キャンプファイヤー 3. 自主性、協調性の育成と連帯感の高揚～テント設営・野外炊飯・清掃</p>
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	なし
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	<p>社会環境の変化により、青少年が自然体験をする機会が減少している中、生活体験・自然体験が豊富な子どもほど道徳観・正義感が身についている傾向が見受けられるという調査結果が出ている。(文部省「子どもの体験活動に関するアンケート」)</p> <p>【他の類似事業】 少年団体リーダー研修</p>
6) 事業の立案や実施などへの市民参加	「わんぱく野外スクール企画会議」を開催し、プログラムの企画・立案において市民にアドバイスを求めた。また、プログラムの講師やグループのリーダーとして学生や一般市民が参画した。
7) 評価中間公表への市民意見	なし

3 事業に投入した行政資源

項目	H12	H13	H14	H15 予算	H14 事業費の主な内訳	金額(千円)
1) 直接事業費(千円)	690	333	295	347	報償費(講師謝礼)	86
2) その他の間接経費(千円)	239	260	310		需用費(消耗品・賄材料)	199
3) 従事正職員の人件費(千円)	1,562	1,575	1,565		役務費(保険料)	10
総事業費(1～3の合計;千円)	2,491	2,168	2,170		H14 主な特定財源の内訳	
総事業費中の一般財源(千円)	2,339	2,070	2,056		参加料(事業開始当初より徴収)	114
市民一人当たり一般財源使用額(円)	42	37	37			
事務に従事した正職員のべ人数	0.19人	0.19人	0.19人			

4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法
参加者数(5・6年生)(人)	目標値	60	60	60	参加者(5・6年生)の人数 目標値は募集定員により設定
	実績値	57	38	51	
	達成率	95.0%	63.3%	85.0%	
参加者数(中学生)(人)	目標値	20	20	20	わんぱくリーダー(中学生)の人数 目標値は募集定員により設定
	実績値	20	11	6	
	達成率	100.0%	55.0%	30.0%	
リーダー参加者数(高校生以上)(人)	目標値	10	10	10	リーダー(高校生・大学生・一般)の人数 目標値は募集定員により設定
	実績値	8	13	6	
	達成率	80.0%	130.0%	60.0%	

5 事業の成果

事業名: わんぱく野外スクール事業

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
5年生から6年生へ継続して参加した人の割合(%)	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定	前年度から継続して参加した6年生の割合 実績値: 継続して参加した6年生の人数/前年度参加者数×100 最終目標の年次は、教育プランの最終年次	参加者名簿
	実績値	7	18	21	目標レベル		
	達成率						
	最終目標	平成18年度に			25%		
わんぱくリーダーとして2回以上参加した人の割合(%)	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定	わんぱくリーダーとして2回以上参加した中学生の割合 実績値: 2回以上参加した中学生の人数/わんぱくリーダー参加者数×100 最終目標の年次は、教育プランの最終年次	参加者名簿
	実績値	5	27	33	目標レベル		
	達成率						
	最終目標	平成18年度に			67%		
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					

6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	[課長評価]	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
[評価ポイント] 活動結果や活動効率、事業改善等の効果はどうだったか	参加者については、目標値に近い参加を得ているが、参加者1班(7名~8名)当り、わんぱくリーダー2人の配置が望ましいと考えるが、参加者が得られずスタッフやリーダー等が対応していることから、今後、募集のありかたについても一工夫が必要である。				
2) 有効性・必要性	[課長評価]	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
[評価ポイント] その事業は事業目的の達成に効果があるか、また、市民(対象者)に必要とされているか	自然の中での体験が不足傾向にあることから、自然に触れての体験活動や学習の機会更に、野外体験の場を提供することは、極めて重要なテーマの一つであり、石狩の自然にふれ、野外で集団宿泊の生活、活動、更に、自然体験を通じた中で、リーダーが実指導を体験することは必要かつ有効である。				
3) 市関与の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] その事業に市が関与する必要があるか、市がどこまで関与するのが適当か	市の主催する事業としては、妥当と考えるが、今後の実施にあたっては、地域で活動されている団体等も視野に入れることが必要である。				
4) 事業内容の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] 目指す成果を挙げるためには今の事業内容が適当か、受益と負担の関係に不公平はないか	石狩の豊かな自然を生かした野外活動を中心に、集団宿泊を通して自然体験や指導者を養成するプログラムとなっている。また、参加者からは、食費分に見合う参加料を徴収しており、概ね妥当と考える。				

7 平成14年度事業の総合評価

[評点の意味] A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	[課長評価]	C	[最終評価]	C (前年度)
	石狩の豊かな自然の中で野外での集団宿泊を通して、自然体験、生活体験及びリーダーの実指導の機会を与えることで、参加者には、自立・協調性を養い、又、リーダーとしての資質向上を目指した事業を展開しており、今後も継続をしてゆくべきである。		課長評価を了承する。	

8 今後の方向性・課題

担当課長評価	野外での集団宿泊生活を通して、参加者には、自主性と協調性を身に付けさせ、又、指導者としての資質の向上を図る事業として継続するが、将来的には民間活用も意識する必要がある。
最終評価	課長評価を了承する。

9 平成16年度の方向性

* 担当課長 最終評価	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持	*	
	縮小方向		
	統合		
	休・廃止		
上についての説明			